令和4年度 年度評価結果表

施設の概要等	施設名称	慶雲館
	施設所管課	文化観光課
	施設概要	慶雲館 【本館】　明治20年建築、延床面積:492㎡、構造:木造2階建、寄棟造、桟瓦葺 1階:展示室、床の間、2階:展示室、玉座の間(国指定名勝構成物件) 【茶室】　明治45年建築、延床面積:46.34㎡、構造:木造平屋建、桟瓦葺(国指定名勝構成物件) 【表門】　平成12年建築、延床面積12.60㎡、構造:木造、桟瓦葺(国指定名勝構成物件) 【中門】　明治45年建築、延床面積18.25㎡、構造:木造、桧皮葺(国指定名勝構成物件) 【露地門】明治45年建築、延床面積4.40㎡、構造:木造、桧皮葺(国指定名勝構成物件) 【庭園】　明治45年作庭、国名勝指定物件 梅の館　平成12年建築、延床面積:723.78㎡、構造:鉄骨造2階建、桟瓦葺 1階:展示室、2階:展示室、会議室
	指定管理者名	長浜観光協会
	指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日

事業成果（令和4年度）	管理実施状況	管理運営業務	① 慶雲館条例第3条各号に掲げる事業の実施に関する業務 一　地域文化及び建造物に関する資料等の展示 二　保存資料についての説明及び助言 三　観光振興を目的とする特別展等の開催 四　建物及びその附帯施設等の公開と供用 五　その他慶雲館の設置の目的を達成するために必要な事業 ②　管理施設及び付属施設の維持管理に関する業務 ③　管理施設の使用許可に関する業務 ④　管理施設の使用に係る利用料金の徴収に関する業務 ⑤　盆梅展の運営に関する業務 ⑥　盆梅の育成及び管理に関する業務 ⑦　その他市長が必要と認める業務
		自主事業の実施状況	・伊吹高校書道部書展　R4.4.1～R4.4.4(4日間)　入館人数245人 ・西陣織国際美術館　長浜展　R4.4.13～R4.4.19(7日間)　入館人数233人 ・第7回長浜さつき盆栽展R4.5.18～R4.6.5(19日間)　入館人数1,899人 ・長浜盆梅展フォトコンテスト作品展　R4.7.1～R4.7.18(18日間)　445人 ・早川鉄平「切り絵の世界」　R4.7.23～R4.8.28(37日間)　1,674人 ・竹灯かり展　R4.9.7～R4.9.19(13日間)　402人 ・松井義和氏「鳥瞰図」展示　R4.9.22～R4.10.16(25日間)　1,269人 ・ナガハマグラスフェス　R4.10.22～R4.11.6(16日間)　1,067人 ・スタジオアジュール梅アート展　R4.11.12～R4.12.4(23日間)　1,079人 ・第72回長浜盆梅展　R5.1.8～R5.3.12(64日間)　35,219人

		令和4年度実績	令和3年度実績	特記事項(増減理由等)
利用状況	利用状況	46,685人	25,440人	通年公開の入館者数は11,466人となり、昨年から2,875人の増となった。また、長浜盆梅展についても、入館者数が35,219人となり、昨年から18,370人の増となった。昨年度と比較すると、新型コロナウイルス感染症の影響が緩和され、長浜への観光客が大きく増えたことや、盆梅展関連の新規イベントがテレビ局の取材に繋がったことから、入館者数増に繋がったと考えられる。

利用者アンケートの結果		評価区分	
		最多項目	満足度 評価
実施概要	方法:盆梅展の来場者にアンケート 期間:盆梅展開催期間	○	非常に満足度が高い
結果	盆梅展の来場者にアンケートを行い回答者(562名)の属性を見ると、女性が多く(64%)、50代と60代が47%を占める。新型コロナウイルスが緩和されたことから、県外からの来館者は53%まで回復。交通手段は自動車が6割と例年並み。初めて来た方は43%、「満足」「やや満足」の合計は90%以上であり、満足度が高く、リピーターが多いことが分かる。切り絵展示については8割が肯定的な意見であった。2割の否定的な意見はほとんどが60代からであった。新規客層としてターゲットとしている若年層は肯定的であり、企画の目的としては狙い通りである。		満足度が高い 普通
利用者の声をふまえ、反映した事項	伝統的な本来の盆梅の魅せ方を活かしつつ、新しい企画展示も今年の反省点を踏まえながらバージョンアップしていきたい。		満足度は低い

収支状況	施設における収支	令和4年度実績	令和3年度実績	特記事項(増減理由等)
	収入(千円)	50,557	49,879	新型コロナウイルス感染症が緩和されたことにより、来館者数が増えたことから、収入が大きく増える結果となりました。
	(指定管理料)	9,015	7,606	
	(利用料金収入)	24,707	10,150	
	支出(千円)	56,214	48,296	

その他特記事項	

年度評価	評価項目	主な評価の視点	配点	評価点
	①設置目的の達成の取組	施設の設置目的の達成、利用者サービスの向上	40	25
	②効率性の向上等の取組	経費の節減等、収入（利用者）の増加	25	17
	③適正な管理運営の取組	経理状況、管理運営費の実施状況、公共性・安全性等の確保	35	27
	合計		100	69
	年度評価及びコメント	年度評価：B		

令和3年度は新型コロナウィルス感染症や大雪の影響を受けて来館者数が伸び悩んだこともあり、令和3年度と比較すると令和4年度は来館者数が2万人以上増加した。

新型コロナウィルス感染症が流行する以前の平成30年度の来館者数は63064人であり、令和4年度の来館者数は平成30年度の74%となっている。

令和5年5月8日より新型コロナウィルス感染症は5類感染症となったことから、環境はコロナ以前の状態にさらに近づくと思われる。その中でいかに客足を呼び戻し、来館者数を平成30年度の数値に近づけていくかが来年度以降の課題である。

また、収支については560万ほどの赤字であり、160万ほどの黒字だった令和3年度に比べ、収支状況は悪化した。収入は令和3年度とほぼ同じ水準だが、支出が大幅に増加したことによって赤字となっている。支出を減らしていくことが今後の課題である。